

基礎看護過程実習

責任者・コーディネーター	共通基盤看護学講座 柏木 ゆきえ 准教授		
担当講座・学科(分野)	共通基盤看護学講座、地域包括ケア講座、成育看護学講座		
対象学年	2	区分/単位数	実習/2単位
期間	後期		

・学修方針(講義概要等)

受け持ち患者のニーズを理解し、日常生活援助等の看護技術を実践するとともに、基本的な看護過程の展開について学ぶ。そして、多様なニーズを持つケアの受け手に対して適切なケアを提供するための基礎的能力を身に付ける。

・教育成果(アウトカム)

患者を一人受け持ち、教員や実習指導者の助言を受け、その患者の看護過程を展開することができる。また、指導を受けながら、受け持ち患者への援助を実践することができる。さらに、患者のニーズに応える援助とはどういうことなのかを考え、それらをまとめ表現することができる。

【学位授与方針と当該授業科目との関連】

本科目は、本学部の以下のディプロマ・ポリシーに関連する。

1	医療人としての全人的人間性をもち、豊かな教養を身につけ、常に自分を振り返る、謙虚な態度を持つ。
2	生命の尊厳と人間としての基本的権利を擁護し、人々の苦痛や苦悩を共感的に理解できる。
3	看護の専門職性及び看護の発展に貢献できる基礎的能力を持つ。
4	看護職者として、さまざまな健康上の課題に気づき、課題に応じて、創造的に看護を実践できる基本的な知識と技術を身につける。
5	患者との関係性のアセスメントを行い、看護を受ける人が自ら持つ力を高められるような援助理論と方法を身につける。
7	保健医療福祉システムの中で、多職種連携を図り、看護の機能と看護職者の役割を理解し、調整機能を果たすための基礎的能力を身につける。

・到達目標(SBO)

1. 看護の目的をもって対象者に関心を寄せ、言語表現・非言語表現を用いた対象との相互作用を通して関係を形成することができる。
2. 対象者の状況に応じて看護に必要な情報を収集でき、その情報を整理してアセスメントし、全体像を描くことができる。
3. アセスメントを統合して看護上の問題を抽出し、優先順位を決定することができる。
4. アセスメントに基づく看護計画の立案と看護実践の方法を見出し、実践することができる。
5. 看護計画の評価に必要な情報が整理され、妥当な評価と評価に基づいた計画の修正ができる。。
6. 振り返りを通して、自らの看護の特徴を理解し、学修課題の明確化と実践の修正ができる。

・授業日程

【講義】

日程	Aグループ 1週目 7/16(火)～7/19(金) 2週目 7/22(月)～7/26(金)	Bグループ 1週目 7/29(月)～8/2(金) 2週目 8/5(月)～8/9(金)
担当教員	共通基盤看護学講座 菫浦澤 幸子 教授 柏木 ゆきえ 准教授 小林 由美子 講師 岡田 康平 講師 小坂 未来 講師 武田 邦子 講師 松田 悠史 助教	地域包括ケア講座 高崎 邦子 講師 館向 真紀 特任講師 菊池 佑弥 助教 成育看護学講座 伊東 佐由美 講師 最上 玲子 講師

授業内容/到達目標	【授業内容】 1. オリエンテーション 2. 受け持ち患者の看護過程 原則として1名の学生が1名の患者を受け持ち、看護過程を展開しながら看護を実践する。 3. 受け持ち患者がいない場合の看護実践 受け持ち患者が決定するまで、あるいは退院した後は、実習指導者と調整し、受け持ち患者を問わず看護実践(情報収集,日常生活の援助,診療の補助,多職種カンファレンス等)を実施・見学する。実習中の看護実践や見学をしていく中で、看護実践の根拠や看護師の思考について学ぶ。 4. 実習報告会 実習報告会を通して、実施した看護を振り返る。 【到達目標】 1. 看護の目的をもって対象者に関心を寄せ、言語表現・非言語表現を用いた対象との相互作用を通して関係を形成することができる。 ・主体的・積極的に対象者に関わり、対象者の表情や様子から思いを察することができる。 ・基本的なコミュニケーションスキルを用いて、対象者に合わせたコミュニケーション(目線の高さ,声の大きさ,話す速さなど)を行うことができる。 2. 対象者の状況に応じて看護に必要な情報を収集でき、その情報を整理してアセスメントし、全体像を描くことができる。 ・必要な情報収集がされ、情報の枠組み(項目)ごとに整理できる。 ・情報を適正に解釈・分析し、その上で看護の方向性を考えることができ、個性を十分に考慮できる。 ・アセスメントに基づく図式化ができ、病態とそれにより生じる生活や対象者の思いなどをつなげて、個性の見える記載ができる。 3. アセスメントを統合して看護上の問題を抽出し、優先順位を決定することができる。 4. アセスメントに基づく看護計画の立案と看護実践の方法を見出し、実践することができる。 ・対象者を視点とした、評価可能な目標を設定し、評価日の設定ができる。 ・対象者の個性を十分に考慮した、具体的で実践可能な看護計画を明確に記載できる。 ・知識・技術を用いて対象者に合わせた方法に変化させながら実践でき、対象者の反応をふまえて、実践を振り返ることができる。 5. 看護計画の評価に必要な情報が整理され、妥当な評価と評価に基づいた計画の修正ができる。 6. 振り返りを通して、自らの看護の特徴を理解し、学修課題の明確化と実践の修正ができる。 ・自らの課題を明らかにし、重要性・必要性に応じて改善策を考え、学修することができる。 ・実習報告会において、メンバーの意見を聴きながら、実施した看護を振り返ることができる。 ※詳細は実習要項に記載する。 【関連するSB0】1,2,3,4,5,7 【事前学修】12.5時間、一日2.5時間】看護過程演習の復習、実習病棟に多い疾患の学修 【事後学修】12.5時間、一日2.5時間】実習記録の記載
-----------	---

・教科書・参考書等		教:教科書	参:参考書	推:推薦図書
	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	ナーシング・グラフィカ 基礎看護学① 看護学概論 第7版	志自岐康子	メディカ出版	2022
教	ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ	松尾ミヨ子	メディカ出版	2022
教	看護がみえるvol.3 フィジカルアセスメント 第1版	深井喜代子	メディックメディア	2019
教	アセスメント・看護計画がわかる症状別看護過程 第2版	小田正枝	照林社	2021
教	今日の治療薬2024 解説と便覧	伊豆津宏二	南江堂	2024

・成績評価方法
【総括的評価】 基礎看護過程実習評価表(100%)に基づき評価する。なお評価は、実習態度、実習記録、カンファレンスの参加態度、実習報告会、課題レポート等のルーブリック評価とする。※評価表は実習要項に記載。
【形成的評価】 面談で実習内容の振り返りを行い、理解度を確認する。

・特記事項・その他
【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】 毎日の実習記録と看護過程の記録については、適宜コメントを伝える。 カンファレンスに参加し、助言を伝える。 実習中間時点と終了時には個別面談を行い、学生とともに実習全体を振り返る。 実習要項やアセスメントガイドなどをWebClassにあげるため、手元に資料がない場合など適宜活用すること。また、教員の指示に従い、看護技術経験などの必要事項をWebClass上に提出すること。
【保健師助産師看護師学校養成所指定規則教育内容】 看護師(別表3):専門分野Ⅰ 基礎看護学 臨地実習

・授業に使用する機器・器具と使用目的			
使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
機器・器具は、実習病院の備品を使用する。			